

令和7年度 まちづくり懇談会（中学生）会議録

日 時：令和7年12月26日（金）午後1時から午後2時30分まで

場 所：周南市役所 シビック交流センター 交流室1

テーマ：わたしたちが住みたい『まちのカタチ』

出席者：周南市内の中学生45名

周南市長

教育長

広報広聴課長

1 懇談会の流れ

- (1) 開会
- (2) 懇談
- (3) 閉会

2 懇談の内容

○：中学生 ●：市長 ▲：教育長

【得意なもの、夢中になっていることは何ですか】

- 最近は映画にはまっている。ドラマよりも短い時間で感動やドキドキが得られるので、とても好きだ。
- 私はバレーが好きだ。今クラブチームに所属していて、最後まで諦めずにプレーすることを大切にしている。
- 私はバスケットボールをしている。クラブチームに入っていて、「勝つこと」を目標に頑張っている。
- 私は音楽が好きだ。音楽を聴きながら勉強すると集中できるので、音楽を聴きながら勉強に取り組んでいる。
- 僕の好きなことは野球をすることだ。小学1年生から今まで野球を続けていて、今はクラブチームで野球を楽しんでいる。
- 私は日記を書くことと、ギターを弾くことに夢中になっている。
- 私はバレーをすることが好きだ。以前は「バレーボーイだからバレーをする」という気持ちだったが、今は「バレーが好きだからバレーをする」という気持ちで続けていて、とても楽しい。
- 自分は、テレビ番組の「今日、好きになりました。」を見るのが好きだ。
- 僕は、数学の図形の証明とゲームにはまっている。
- 私は読書をすることが好きだ。特にミステリーやファンタジー、ダークファンタジー、それからサスペンスも好きだ。
- 私は最近、特別に何か一つに強くハマっているわけではない。ただ、3歳くらいのときからずっとバレエダンスを続けていて、踊ることが楽しいと感じることが増えている。
- ありがとう。皆さんそれぞれ、いろいろなことを一生懸命楽しんでいると感じる。今、世界では戦争が起きている地域もある。そうした場所にいる同じ年代のこどもたちは、自分

の「好きなこと」を思いきりできない状況にある。そう考えると、皆さんのが「好きなこと」や「熱中できること」を持ち、幸せに暮らしながら学校生活を送っていることは、とてもありがたいことだと思う。きっと、それに取り組んでいるときの皆さんは、とてもいい表情をしているはずだ。その延長線上に学校生活全体があり、これから的人生がある。生徒会役員として、自分たちの「好きなこと」を大切にしながら、他の生徒一人ひとりも自分の好きなことを楽しめる学校にしていってほしいと思う。一人ひとりの声を聞き、より良い学校を作っていくつてほしい。

【生徒会でどのような活動をしていきたいと思いますか】

- ▲ 先ほど皆さんの「好きなこと」「打ち込んでいること」を聞かせてもらった。ここからは「学び」について話したい。教育委員会では、周南市の学校教育の基本的な考え方として、「未来を生き抜く子どものための、興味・楽しさ・勇気を育む — 子どもまんなか教育」を定めている。大切にしたいのは、興味・楽しさ・勇気だ。
- 「やってみたい」「もっと知りたい」と思える興味のある授業、「おもしろい」「次が楽しみだ」と感じられる楽しさのある授業、「難しそうだが挑戦してみよう」と一步踏み出す勇気を育てる授業、さらに、自分とは違う考え方につれ、自分を振り返ることができる授業。そうした授業ができる学校を目指したいと思う。
- 私自身、教員時代にそれが完璧にできていたかと問われれば疑問もあるが、目指す姿として大切にしたい。それが「未来につながる学びがあふれる学校」だ。今日ここに来てくれた皆さんは、3学期から生徒会役員として学校のリーダーになる。それぞれ「こんな学校にしたい」という思いがあるはずだ。各学校の思いをぜひ聞かせてほしい。
- 私たちの学校では、学年を越えた交流をより活発にしていきたいと考えている。学校全体が一つにまとまり、互いの学年を知り合える活動を行いたい。そのつながりが、将来的には地域全体にも広がってほしいと思う。
 - 私たちの学校では、「やる気のある生徒」と「そうでない生徒」の差が大きいと感じている。生徒会が手本となり、全体のやる気を引き上げていける学校にしたい。挨拶運動の場所を増やし、挨拶の質も高めたい。ハロウィンやクリスマスなど、時期に応じたイベントを通して、やる気のある人を少しずつ増やしていきたいと思う。
 - 私たちの学校では、一人ひとりが「学校が楽しい」と思えるような行事やイベントを多く行い、笑顔を増やすことを目標としている。これからもこうした行事を続けていきたい。
 - 私たちの学校では、生徒一人ひとりが個性を発揮し、新しいことに挑戦してほしいと考えている。そのためには、目安箱の設置やタブレットの活用など、生徒が意見を出しやすい環境を整えていきたいと思う。
 - 私たちの学校では、県の「健幸プロジェクト」に参加している。心と体の健康を大切にする取組で、これをさらに活性化させたい。休息の時間を設けるなど、皆さんのが元気に前向きに学校生活を送れる工夫をしていきたいと考えている。
 - 私たちの学校では、「みんなが自信を持って意見を言える学校」にしたい。
 - 私たちの学校では、学年を越えた交流行事を行っている。こうした取組を生かし、学校全体で協力し合い、一人ひとりが主人公になれる学校を目指したい。

- 私たちの学校では、地域との絆をさらに深めたいと考えている。全校会でのレクリエーションなど、学年間の絆づくりを地域にも広げ、地域に貢献していきたい。
- 私たちの学校では、校則の見直しや郷土料理づくり、挨拶運動などを行っている。誰もが過ごしやすく、地域との関係が深まり、挨拶が活発な学校を目指している。
- 私たちの学校では、「チャンス・チャレンジ・チェンジ」をまとめた「3 C」をモットーにしている。生徒一人ひとりがチャンスをつかみ、共に成長できる学校にしたい。自分自身も率先して挑戦し、周囲を励ましながら進んでいきたいと思う。
- 私たちの学校では、挨拶運動に力を入れている。小学校と合同で行っている挨拶の日を月2回に増やし、地域との交流をさらに深めたいと考えている。
- 私たちの学校では、生徒会活動を通して、昨年以上に充実した学校生活をつくりたい。少人数の強みを生かし、一人ひとりの声を大切にしながら、笑顔あふれる学校にしたい。
- 私たちの学校では、委員会ごとに課題を設定し、環境美化などに取り組んでいる。少人数校の特性を生かし、相談しやすい環境づくりを続け、安心できる学校を目指している。
- ありがとう。各校が特色ある取組や目標を持っていることがよく分かった。特に、どの学校も地域とのつながりを大切にしていると感じた。では、地域の人と一緒に活動する中で、楽しいと感じることは何かあるか。
- 地域の人から昔の話を聞くのが楽しい。自分たちの知らないことを知ることができ、視野が広がると感じる。
- 運動会などで、大人が本気で参加している姿を見ると、自分たちも頑張ろうと思う。
- 神楽の活動を通して、地域の一員として伝統を受け継いでいるという責任感と喜びを感じる。
- 茶道部で地域の方から指導を受け、お茶会にも参加している。
- 放送活動で講師の指導を受けることが、良い経験になっている。
- 凧づくりを地域の方に教えてもらい、スムーズに活動できた。
- ▲ 学校は、こどもと教職員だけでなく、地域の支えによって成り立っている。地域の思いを受け止めながら、学校づくり、まちづくりに関わっていってほしいと思う。
せっかくなので、市長が目の前にいるこの機会に、悩みや質問があれば聞いてほしい。
- 生徒会として人を動かす立場になるが、そのコツを知りたい。
- 人を動かすために大切なのは、まず自分が動くこと、そして仲間をつくることだと思う。
思いを伝え、行動で示すことで、少しずつ人は動いていく。
- ▲ 周りから「この人なら任せたい」と思われる存在になることが重要だと思う。
- 生徒会同士で協力するための、コミュニケーションのコツを知りたい。
- 相手の目を見て話し、気持ちをくみ取ることが大切だと思う。経験を重ねることで、人の気持ちは分かるようになる。
- ▲ 相手の話を最後まで聞くことが、コミュニケーションでは重要だと思う。
皆さんの取組が進めば、周南市全体の学校は少しずつ良くなっていく。今日聞かせてもらった思いが、1年後に少しでも多く実現していることを願っている。

【市長になつたらやつてみたいことは何ですか】

- 私は市長として「どんなまちなら、ここに住み続けたいと思ってもらえるか」を常に考えている。東京などの大都市に行く若い人も多いが、「本市はそれらに負けない素晴らしい持っている」と思っている。では、みなさんにとって、「どんなまちならここに住みたい、住み続けたい」と感じてもらえるのか。「このまちはどんなまちであつてほしいか」「自分が市長になつたら何をしてみたいか」を聞いてみたいと思う。
- 市長になつたら、夏祭りで行われている花火を、もっと迫力のあるものにしたい。周南市の夏の思い出として、より心に残る花火大会にしたいと思う。
- 市長になつたら、周南市のイベントを市内だけでなく他の地域の人にも知つてもらえるようにしたい。多くの人が交流できるまちにしたいと思う。工場夜景や野球など、周南ならではの魅力を積極的に発信していきたい。
- こどもから高齢者まで、誰もが安心して過ごせるまちづくりが一番大事だと思う。放課後や休日に年齢を問わず集まれる場所があれば、交流が増えると思う。
- 今の話を聞いていて、すでにできそうなこともあると感じた。
- 一番に「住みやすいまち」にしたいと思う。今の周南市は、公園や店などの遊ぶ場所が少なく、市外に出ることが多い。ただ、新しい施設を増やすのは難しいと思うので、自然を生かした登山や釣りができる場所を整備したい。そうすることで人の流れや経済活動も活発になると思う。
- 徳山商店街の人通りが少なく、シャッターが閉まっている店が増えていることが気になっている。市長になつたら、にぎわいが続くようにしたい。「徳山デッキ」などの取組を起點に、少しづつ広げていけたらいいと思う。
- まさに大きな課題の一つだ。将来、皆さんのが起業し、商店街で店を構えてくれたら嬉しい。
- 市長になつたら「まちの幸福度」を1位にしたい。子育て支援や交通の利便性が重要だと思う。若い世代が音楽に親しめるよう、無料で楽器を演奏できる「音楽の公園」のような場所があればいいと思う。
- コンビナートやツリー祭りなど、周南市の魅力をもっと発信したい。市民が誇りを持てるまちにしたい。
- 主要企業がカーボンニュートラルに取り組みながら過去最高レベルの投資をしてくれている。これは、このまちで企業活動を続ける覚悟の表れだと思う。発信が足りない部分は、広報の面でも力を入れていきたい。
- 明るいまになれば「ここで過ごしたい」と思う人が増えると思う。挨拶運動やごみ拾いを続け、きれいなまちにしたい。スポーツができる大きな公園もあればいいと思う。
- ボートレース徳山の中に、小さなこどもが涼しく遊べる施設をつくる計画がある。もう少し待ってほしい。
- 誰もが暮らしやすいまちをつくりたい。物価も含め、生活しやすいまちにしたいと思う。
- 作る側として、参画してほしい。そのためにもたくさん食べて元気に育ってほしい。
- 周南市の「もったいない」と感じる部分を変えたい。落ち着きが「変わらなくていい理由」になっていると感じる。工夫次第でお金をかけずに若者が集まる場所は増やせると思う。「動かないから増えない」。このまちを変えたい。

- 胸に響く言葉だ。しっかりと受け止めた。
- 学校の老朽化が気になっている。過ごしやすい学校にすることで、人が集まるまちになると思う。
- 学校の老朽化は大きな課題だ。教育委員会と連携し、順番に改善している。
- ▲ 特別教室や体育館の空調整備についても順次進めている。後輩たちのためにも、少しづつ整えていきたい。
- 時間はかかるが、しっかりと取り組む。
- 夜道が暗く不安に感じる場所がある。街灯を工夫して、もう少し明るくしてほしい。
- 難しい面もあるが、できる限り対応したい。
- 地域と交流し、ごみ拾いなどを続けたい。
- 一人ひとりの行動が、まちをきれいにする。
- 電車をもっと便利にしたい。雨で止まりやすく、本数も少ない。
- 市として、その声をしっかりと伝えていく。
- SNS を活用し、若い世代に周南市の魅力を発信したい。バリアフリー化も進めたい。
- ありがとう。市としても、X（旧 Twitter）など、いろいろなSNSで発信はしているが、まだまだ足りない部分もあると思う。市民ライターという制度もあり、18歳以上の市民の方に記事を書いてもらい、自身の目線でまちの魅力を発信してもらっている。皆さんも、高校生・大学生になったら、ぜひそうした形でも、まちの魅力を発信していってほしいと思う。先ほどから、各学校の取組や、「こんなまちにしたい」という皆さんの考えを聞かせてもらい、本当にすばらしいと思っている。皆さんの意見は、私が市長として「このまちをどうしていきたいか」と考えていることと、本質的には同じだ。リーダーになった人が、どんな「まちづくり」をしたいかによって、そのまちの方向性は大きく変わる。それは、学校づくりも同じだ。皆さんのが今、「こんな学校にしたい」と考え、そこに向かって行動することで、皆さんの学校は必ず変わっていく。2050年、皆さんは何歳だろうか。今から約25年後だ。そのときに、周南市がどんなまちになっていてほしいか、人口減少をどう防ぐか、2050年までにカーボンニュートラルをどう実現するか、その「ゴール」を考えながら、「では今、何をしておかなければならぬか」を決め、一つひとつ実行していくことが必要だ。皆さんも同じように、「どんな高校に行きたいか」「どんな仕事に就きたいか」という目標を考えることで、「今」何をすべきかが見えてくると思う。今日、皆さんから本当にたくさんの、そしてとてもレベルの高い意見を聞くことができた。これからも、「誰かがやってくれるだろう」ではなく、「自分なら何ができるか」を考えながら、学校づくり、まちづくりに関わっていってほしいと思う。私も、市長として、皆さんが笑顔で暮らせる周南市になるよう、全力で取り組んでいく。

【市長・教育長に聞いてみたいこと】

- 私は、今月「生徒会長として正式になった」という紙を、みんなの前で受け取った。それまで、自分が生徒会長になるとは考えておらず、小学6年生で転校ってきて、中学1年生になり、「自分は生徒会長にならなければならないのだ」と思い始め、いろいろ考えていた。今も、「ちゃんと生徒会長として学校を引っ張っていけるのか分からぬ」「失敗も多く、こんな自分でいいのか」と悩んでいる。こういうとき、どうしたらいいのだろうか。

- あまり、自分を否定しすぎないことだと思う。完璧な生徒会長など、どこにもいない。あなたが生徒会長になったことを、喜んでいる人は必ずいる。「あなたが生徒会長になってくれたから」と、楽しみにしている人もいるはずだ。もし何か間違ってしまったことがあれば、そのときは素直に「ごめんなさい」と謝ればいい。それで終わりではなく、「これからどうしていきたいか」を考え、前に進んでいけばいい。過去の自分を振り返り、謝るべきところは謝り、それ以外のところは、「自分なりに頑張ってきた」と自分を認めてあげてほしいと思う。
- ▲ 今の話を聞いていて、「生徒会長らしく振る舞おうとすることは大切だが、生徒会長でなければならないと思う必要はない」と感じた。生徒会長である前に、一人の中学生だ。背伸びをしそぎず、それでも自分なりに「こうしたい」という姿を持ち、少しずつそれらしくなっていけばいいと思う。やった人にしか分からぬ苦労がある。だからこそ、その苦労を知っている人は、人にやさしくなれるのだと思う。1年間、大変なことが多いと思うが、ぜひ仲間と一緒に頑張ってほしい。